

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900224		
法人名	株式会社 萌花		
事業所名	萌花甲子園		
所在地	兵庫県西宮市甲子園六番町14-25		
自己評価作成日	令和3年7月16日	評価結果市町村受理日	令和3年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和3年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 同一建物に協力医療機関があり、急変時や終末期には迅速に対応できる
2. 常勤の看護師がおり、24時間体制で医療と連携している。
3. ターミナルケアを行っている
4. 「入所者様に笑顔を！家族様に安心を！」を合言葉に駅から近く交通の便がいいなどの特性を生かし、情報発信を密に行うなどして家族や知人が訪れやすく安心できる施設作りを心掛けている
5. 介護職員全員が介護福祉士か看護師の資格を持っており、より質の高い介護の提供に努めている

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から近く、生活に便利な環境である。1階に母体の医療機関があり、24時間の医療連携体制が整備され、重度化・終末期対応も行っている。職員全員が看護師(2名)か介護福祉士職員の資格を持ち、専門性の高いケアを実践している。職員全員参加を基本として全体会議と研修を毎月実施し、職員の資質向上と連携を図り、職員の定着が良く運営が安定している。新たに手作り調理の「日替わりランチ」を企画する等、更なるサービスの向上にも積極的に取り組んでいる。現行の介護計画と毎月のアセスメントを職員間で共有し、現状に即した個別支援に取り組んでいる。毎月の「萌花だより」「管理者だより」の郵送、定期的な家族アンケートの実施、(条件付きで)面会の機会作り等、コロナ禍でも家族が安心できるよう努めている。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念について研修し、年間の研修予定に組み込んで職員の共有を図っている	「利用者様が住み慣れた地域で、地域の人に見守られながら安心した生活が送れるようお手伝いします」という地域密着型サービスの意義をふまえた理念を明示している。玄関とスタッフルームに掲示し、パンフレットや「萌花だより」にも掲載し、職員・家族に共有を図っている。入職時研修と、年間計画にもとづいた研修で理念についての理解を深め、実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老の日には地域の保育園児に来園してもらったり、自治会主催の花見に参加したりして地域との交流を図っているが、最近はコロナで実施できていない。	自治会に加入し、民生委員や近隣の店舗・クリニックと協力関係がある。地域の人からの認知症や介護に関する相談に対応し、必要に応じて社会資源を紹介している。通常は、自治会が主催する花見会に参加し、敬老の日には近隣の保育園児の来訪があり、地域の中学校からトライやるウィークを受け入れる等、地域交流の機会を設けているが、コロナ禍のため、外出や交流を休止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のトライアルの受け入れや地域の家族の方からの相談を受け付けている		

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで開催しているが、昨年からコロナの影響で文面だけの会議になっていて活発な意見交換ができていない	家族代表・地域代表(民生委員)・市の権利擁護支援員・知見者(他事業所管理者)・管理者を構成メンバーとして、通常は2ヶ月に1回開催している。共用空間で開催し、利用者との交流もある。会議では、利用者・職員の状況、行事等の事業所の取り組み、ヒヤリハット事故事例等の報告を行い、参加者と意見・情報交換を行っている。令和2年度から、コロナ禍のため会議の開催は休止し、書面会議を行っている。議事録に、「返信用紙」と時には「萌花だより」を同封して構成メンバーに郵送し、意見・情報等が返信されている。	運営推進会議の議事録を玄関に設置して、公開することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人指導課とは必要時にメールや電話でやり取りをしている。最近ではコロナ接種課と密に連絡をとりあい、6月後半に入所者と職員の接種が終了している。	運営推進会議に市の権利擁護支援員の参加があり、連携を図っている。通常は、西宮市グループホーム連絡会や、市主催のイベントを通しての連携もあるが、休止している。制度や手続き等で不明な点があれば、主に電話で問い合わせ、適正な運営に反映している。最近では、コロナウイルス感染予防対策やワクチン接種に関して、情報提供や連絡が多く連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルを作成している。年間の研修予定に組み込んで職員に徹底している。3か月に1回、会議で現状の確認を行っている	「身体拘束廃止マニュアル」「身体拘束廃止指針」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。「運営会議」の中で3ヶ月に1回「身体拘束適正化委員会」を行い、「身体拘束適正化について」検討している。委員会の内容は、職員全員参加を基本とする「全体会議」で共有している。年間研修計画に入れ、「身体拘束の定義と廃止」研修を毎年行い、理解を深めている。	「全体会議」での周知が明確になる、記録の工夫が望まれます。

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを作成している。年間の研修予定に組み込んで職員に徹底している。	「高齢者虐待防止マニュアル」を整備し、年間研修計画に入れて、毎年「高齢者虐待防止」研修を実施している。気になる言葉かけや対応等があれば、管理者が注意を促し意識向上に努めている。管理者・職員間の相談しやすい風通しの良い関係作りに努め、休憩室での休憩時間の確保、有給休暇の取得促進、シフト調整等、ストレスや疲労がケアに影響しないように配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に権利擁護の委員が参加しており会議で提案された内容等は月1回の職員会議に議案として提出することもあり、その都度職員への周知をはかっている	現在は、職員全員が看護師か介護福祉士の資格を持ち、権利擁護に関する制度について理解している。今後、必要があれば、研修内容に追加する予定である。近年、利用者が成年後見制度を活用しているの事例はない。今後、制度利用の必要性や家族からの相談等があれば、管理者が相談に応じる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には2時間程度の時間をかけて利用者家族の納得を得るように心掛けている。又、疑問等がある場合にはその都度、説明して理解を得るようにしている。	入居希望があれば、パンフレットや料金表等の資料を郵送している。緊急性があり、空室がない場合は、他の施設や事業所について情報提供している。契約時には「契約書類一式ファイル」に沿って、契約書・重要事項説明書・各種指針・同意書の内容を説明し、文書で同意を得ている。時間をかけて丁寧に説明し、疑問や不安の解消に努めている。契約内容の変更時には、変更内容を説明した書面を郵送し文書で同意を得ている。	

萌花甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族対応の窓口を管理者にしているが、他の職員も家族の来園時には声掛けを心掛け、意見等があれば、管理者に報告し運営に反映させている	緊急事態宣言発令時期以外は、感染予防対策のためのルールを設けた上で、家族の面会を行っている。面会時や電話連絡時に近況を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。計画作成担当者が「介護計画」の見直し時に「家族アンケート」を郵送し、家族の意向や要望を返信してもらい、計画内容や支援に反映している。玄関に意見箱も設置している。毎月「萌花だより」と「管理者だより」を郵送し、家族が意見・要望を表しやすいように努めている。「萌花だより」には行事等の写真を多く掲載し、「管理者だより」には管理者と居室担当者が個別の文書で、心身の状態や生活の様子などを伝えている。通常は、行事への招待や家族会の開催を行っているが、現在は休止している	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員全員が参加する全体会議を設け、意見や提案を聞いている	月に1回「全体会議」を開催し、職員の意見や提案を利用者のケア・運営・サービス等に反映している。職員全員出席を基本とし、ほぼ全員が参加し、意見・提案を出し合って話し合う機会を設けている。参加できなかった職員は議事録を閲覧し共有を図っている。話しやすい関係づくりに努め、管理者が個別に職員の意見を聴く機会も随時設けている。法人の「運営会議」に管理者が出席し、職員の意見等を法人代表者に伝える仕組みがある。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休の取得や賃金の向上、勤務時間の短縮など職員が働きやすい職場環境の整備に努めている		

萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議を開催し、情報の把握に努め、介護の質の向上を心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西宮市グループホーム連絡会や市開催のイベントなどを通じて同業者との交流を図っていたが、最近ではコロナの影響で機会がない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で対応する、穏やかに話す、話を傾聴するなど心掛け、安心して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に十分に話を聞く時間を設け、不安や要望の把握に努め、安心・納得していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス、経済的な事も含めて十分に話し合い、場合によっては他のサービスを提案することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分でして頂く、プライドを尊重した声掛けをする、挨拶をする、お手伝いをして頂いたときにはお礼をいうなど日常の会話を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護は職員が担うが、心理面での支えを家族にお願いしている。又、散歩等のマンツーマンのケアは職員では時間的に難しいためご家族にお願いすることがある		

# 萌花甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域からの入所者が多く、知人や友人等の面会もある。行き慣れたスーパーなどもあり、買い物に行かれることもある。現在はコロナの影響で面会や外出を制限している	地域からの入居が多く、通常は、家族以外にも友人や知人の面会があり、共用空間や居室でゆっくり過ごせるように配慮している。近隣のスーパーや店舗、公園が馴染みの場所である利用者もあり、家族の協力で散歩・買い物・喫茶に出かけられるように支援している。現在は、コロナ禍のため、家族以外の面会や外出は休止している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で入所者同士での会話がある、職員を交えてゲームをするなど利用者同士の関りを支援している		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に電話で相談される事もあり、退所された後も気軽に連絡して頂くように伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1回、計画作成担当者が中心になって本人・家族の要望を聞き、サービス計画を見直して職員間の情報共有に努めている。意思が確認しにくい利用者には全体会議で職員の意見を聞き計画の見直しを行っている	入居前の情報や、契約時の面談等で把握した利用者の思いや暮らし方の希望を、「フェイスシート」「アセスメントシート」に記録し共有している。日々のコミュニケーション、毎月のアセスメント、介護計画更新時の家族アンケート・全体会議での情報交換等からも把握に努め、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。意思の疎通が困難な場合は、表情から汲み取り、反応で思いを推測し、全体会議で検討しながら把握に努めている。	

萌花甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集に努め、出来るだけ今までの暮らしが継続できるように努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を生かせるように支援している		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは入所前、面会時に意見を聞くようにしている。計画作成担当者を中心に本人の状況に併せてケアプランを見直し職員への周知を図っている	入居時に「フェイスシート」「アセスメントシート」をもとに初回の介護計画を作成している。スタッフルームに最新の「アセスメントシート」と「介護計画」を綴じたファイルを設置し、職員に周知を図っている。日々のサービス状況は、電子カルテの「介護記録」・各種「チェック表」・「業務日誌」と、「利用者状況」シートに記録している。毎月「アセスメントシート」で再アセスメントを行い、変更項目は赤字でわかりやすく記入している。月1回全体会議で利用者状況について共有し、必要に応じて検討している。定期的には6ヶ月に1回、、家族にアンケートを郵送して意向を聴き、介護計画の見直しを行っている。見直し時には、家族の意向・「モニタリング」・「アセスメントシート」・全体会議での意見交換・必要時には主治医の意見も反映している。	全体会議の中での「介護計画」見直しに向けた検討を明確にし、「介護計画」見直しの経過について「居宅介護支援経過記録」等に記録を残してはどうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を電子カルテに記録し、情報の共有を図っている。問題がある場合には、全体会議でケースカンファレンスをして介護の統一を図っている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者が必要と判断した場合は、家族からの要望や本人の希望を聞いて他のサービスやつどい場などを紹介している		



萌花甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力を得ながら外出支援、自治会行事への参加、トライアルの受け入れなど地域との関りが持てるように努めている		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調が悪い時には家族と連絡を取り合っ て、階下の岡田クリニックを受診している。 必要があれば他の病院へ搬送している。	契約時に利用者・家族の意向を確認し、現在は、全員が同一建物内の医療機関(外科・整形外科・内科・心療内科)をかかりつけ医としている。2週間に1回の往診があり、必要時は職員が同行し随時受診している。看護師が往診時に対応し、「看護日誌」に情報提供と受診結果を記録している。他科については、近隣の歯科には職員が同行し、その他は主治医の紹介を受け家族同行で受診している。受審結果は「介護記録」「日報」に記録し、職員間で情報共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が2名おり、介護職員の相談や異変があった場合には医療機関との窓口になっている		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の紹介で入院先を確保し、入院時には看護師が同行する。退院前には看護師が病院に訪問し情報を収集して、職員間で情報を共有するようにしている	近年、入院の事例がない状況である。入院の際は、主治医の紹介を受け、看護師が同行し、口頭と「介護サマリー」で情報提供している。入院中と退院前は、看護師が病院を訪問し、利用者の状況を把握し、病院関係者と連携をし早期退院に向け支援している。把握した情報を、介護記録と日報、内容に応じて、別紙に記録し、職員間で共有している。退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、退院後の支援に活かしている。	

# 萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合について説明している。重度化しそうな場合は早期に再度説明し、同意を得るようにしている。管理者が窓口になり家族と主治医、施設との話し合いの機会を設けている	契約時に「重度化(入院)に係る対応の指針」に沿って、事業所の方針を説明し、同意書で同意を得ている。終末期を迎える段階で、家族に医師から状態を説明し、管理者が「看取りに関する指針」に沿って説明し意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、看取りの介護計画を作成し家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。年間研修計画に入れ、ターミナル研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、急変時の対応を研修予定に組み込み、年1回は研修して周知を図っている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。生活水として井戸水を確保している	令和2年度は、昼間想定火災対応訓練を1回、水害対応訓練を1回実施している。3年度は4月に水害対応訓練を実施し、11月に夜間想定での火災対応訓練を予定している。出火場所別に避難方法・避難場所を考慮し、利用者もできる限り参加し、実践的な訓練に取り組んでいる。訓練内容・結果・反省は、訓練後に全体会議で共有している。備蓄品は3階倉庫に準備し、生活用水は敷地内の井戸水を確保している。	今後も、昼夜を問わず安全に避難できるように、昼間想定・夜間想定での訓練を実施することが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンターケアを念頭に日常生活援助を行っており、年間研修予定にも組み込んでいる個人情報については同意書を得ている	「認知症ケア」の研修の中でパーソンセンターケアについて学ぶ機会を設け、利用者個々の尊厳・プライバシーを損ねない言葉かけ・対応について周知を図っている。気になる対応や言葉かけがあれば、管理者がその都度助言し、注意喚起している。写真の掲載への意向を確認し、「個人情報利用同意書」に項目を設けて同意を得ている。個人情報に関わる書類は事務所の施錠できるロッカーに保管している。	

萌花甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者との会話の時間をとるようこころがけており、本人のペースに合わせるようにしている		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者との会話の時間をとるようこころがけており、本人のペースに合わせるようにしている		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には好きな服を選んできていただいている。職員が選択する場合は季節に合った服装で清潔なもの、サイズがあっている物を基準に選んでいる。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は事業所で用意しているが、食べやすいように刻んだり、嚥下が悪い入所者にはソフト食を用意するなどして食べやすいように提供している。行事食を企画して食事にメリハリをつけている	委託業者から届く主菜を温め、炊飯・汁物は事業所で用意し提供している。行事食や誕生日メニュー等、食事が楽しめるよう工夫している。刻み食・ソフト食等、利用者個々の食事形態にも対応している。お盆拭きやお茶の下準備等、利用者のできることを活かせるよう支援している。利用者の好みや食べやすさに対応し、食事をさらに楽しめるように、昼食を手作りの「日替わりランチ」にすることを全体会議で検討している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分摂取量をチェックし、少なければ摂取を促すようにしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が介助して口腔ケアを実施している。夜間は入れ歯を外して頂き、洗浄液に漬けている		

萌花甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、職員が時間をみながら排せつ誘導をおこなっている。尿意、便意が判らない入所者もいるが出来る限りトイレで排せつ出来るように支援している	「利用者状況表」と電子カルテの「チェック表」で、利用者個々の排泄状況とパターンを把握し共有している。日中・夜間ともにトイレでの排泄を基本とし、声かけ・誘導・介助等、個別に必要な支援を行っている。毎月の全体会議の中で利用者の状況を共有し、介助方法・排泄用品等を検討し、家族の同意も得て、現状に応じた支援につなげている。誘導時の声かけや、ドア・アコーディオンカーテンの開閉など、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やオリーブオイルの使用、水分量をチェックなど出来るだけ下剤に頼らないように工夫している		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に異常がなければ、週に2回のペースで入浴している。入浴はマンツーマンで行い、汚染があった場合はその都度入浴し、拒否が強い場合は声をかける職員を代える等対応している	広く清潔感のある浴室・脱衣室があり、一人ひとりのペースでゆっくり入浴時間を過ごせるよう支援している。「入浴日一覧表」で入浴状況を確認し、「電子カルテ」「入浴チェック表」で把握・管理している。週2回の浴槽での入浴を基本とし、利用者個々の体調や気分に応じて入浴できるよう柔軟に対応している。希望があれば、同性介助に対応している。利用者の身体状況に応じて、2人介助・シャワー浴・清拭等、安全に清潔が保持できるよう支援している。しょうぶ湯・ゆず湯等、季節感を味わいながら入浴を楽しめる機会を設けている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各部屋に温湿度計を設置して、室温調整をこまめに行っている。掛け布団の調整や寝具の洗濯等も担当者を決めて対応している		

萌花甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬剤師がおり、主治医、施設の看護師と密に連絡を取り合って情報交換している。写真付き薬情報を作成して職員への周知を図っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事担当者を決めて各月にイベントをする。毎日、塗絵や字合わせ、歌唱等その日の入所者の状態に併せてゲームを行っている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、この1年半ほどは外出はしていない。ただ、緊急事態宣言が解除された時やコロナワクチン接種が2回終わった後には、制限を設けて家族の面会を行った。	例年は近隣への散歩・公園・スーパーへの買い物・喫茶・花見などに出かけられるよう、個別の支援に努めている。昨年度・今年度はコロナ禍のため外出ができていない状況である。現在は、緊急事態宣言発令時期以外は、感染予防対策のためのルールを設けた上で、月2回程度家族と面会できるよう個別に支援している。コロナ禍終息後は、外出支援を再開する予定である。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にお金は置いていないし、本人が所持することもない。買い物に出かける際は職員が同行し、施設で預かっているお金を本人に渡し、本人が支払う。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望すれば事務所の電話を使用する。ダイヤルが出来ないため職員がかけたり、かかってきた電話を取り次ぐ。		

# 萌花甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居室の前には大きな字や絵で表示している。各部屋に違うのれんをかけて目印にしている。季節ごとの壁飾りを行い、季節感が出るように工夫している	共用空間は温湿度管理・換気を行い、消毒・拭き掃除等により清潔を保持している。廊下・リビングの壁面に、ひまわり・花火・提灯など季節に応じた利用者の作品を飾り、季節感が感じられる。トイレ・各居室入口にわかりやすい表示があり、場所間違いがないよう配慮している。キッチンから調理の音や匂いが感じられ、洗濯たみ・お盆拭き等に利用者が参加できるよう支援し、生活感が感じられるよう努めている。日課としてラジオ体操の時間を設け、長い廊下で歩行や足踏みを行い、フレイル予防に努めている。また、ぬり絵・テレビ・談笑等思い思いにくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での席順を工夫して気の合った入所者同士が話せるように努めている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人と相談して、家より本人が使い慣れた物を持参している。壁に作品を貼って楽しんでいる入所者もいる	居室にエアコン・ベッド・チェスト・戸棚が設置され、利用者の動線に配慮した家具の配置となっている。自宅から使い慣れたもの(椅子・こたつ)やなじみのもの(写真・人形・カセットデッキ)等が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるよう配慮している。また利用者の作品や、職員からの誕生祝いの色紙等が飾られ、居心地の良い環境づくりを支援している。居室担当職員が衣替え、衣類や寝具の確認、清潔保持等の環境整備を行っている。居室の入り口に暖簾をかけ、プライバシーにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	計画作成担当者がADL表を毎月更新して、職員が共有できるようにスタッフルームに設置している。職員はその情報に沿ってケアを提供している		